

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	神奈川県
-------	------

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	横須賀市立鴨居小学校								
学校規模	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	3	3	2	0	15	22
児童数	84	72	76	88	91	65	0	476	

・研究の概要

1. 研究主題

・研究主題	「一人ひとりが自分のよさと可能性を發揮できる活動をめざして」
-------	--------------------------------

2. 内容与方法

(1)実施学年・教科

<p>全学年「生活科と総合的な学習の時間」を中心とした「教育課程全般」 確かな学力は知識・技能はもとより、思考力・表現力や意欲といった力を含めたものと考えている。それら全てを複合した学力が、生活の向上・自己実現・自らのよりよい生き方を追求していく確かな学力ととらえると、教育課程全般を通して、学力を培い、生きる力を身につけることが必要になってくる。そこで、昨年度に引き続き「生活科と総合的な学習の時間」を中心とした「教育課程全般」で研究を進めることとした。 また、3年生から6年生算数科での少人数指導の取り組みを進め、個に応じた指導の充実をはかることとした。</p>

(2)年次計画

平成14年度	<p>テーマ「一人ひとりが自分のよさと可能性を發揮できる活動をめざして」 仮説 子ども達の実態を適切に評価し、一人ひとりの子どもに合った指導を考え、教育課程や学習過程を工夫することによって、一人ひとりの確かな学力を養い、主体的な活動を行う力が育つであろう。</p> <p>研究内容・方法 研修会を実施し、確かな学力とは何か、本校における望ましい子ども像とはどのようなものかを検討し、どのように子どもの学力を捉え、向上させていくかを検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会・学習会の実施 ・指導法改善委員会の設置 ・算数科における少人数指導の導入 ・子どもとつくる「生活科」「総合的な学習の時間」の工夫 ・全員による研究授業 学年部ごとの授業研究会 ・各教員の学力向上を図るいろいろな指導法・評価法の洗い出し ・鴨居小学校独自のゆとりある年間計画の作成
--------	--

- ・体験的・問題解決的学習の一層の推進
- ・基礎・基本を確実に身につけるためのわかる授業づくり

平成
15
年度

テーマ「一人ひとりが自分のよさと可能性を發揮できる活動をめざして」
仮説

生活科・総合的な学習の時間において、児童一人ひとりが課題意識をもって、意欲的に活動を創り出し、その中に見られる問題発見能力・判断力・表現力などの育ちは、教科学習と強く関連すると思われる。

研究内容・方法

学年発達段階における「生活科」「総合的な学習の時間」の内容や活動を分析・検証し、特色ある年間計画の作成を進める。算数科における少人数指導の推進により、学力の向上をはかる。

- ・子どもたちの実態にてらした求められる確かな学力の分析・追求
- ・研究者を招き、継続的な指導助言を受ける。
- ・全員による研究授業 学年部ごとの授業研究会
- ・鴨居小学校独自のゆとりある年間計画の作成
- ・個に応じた指導のための教材・指導方法・指導体制の工夫
- ・子どもとつくる「生活科」「総合的な学習の時間」の工夫
- ・本校独自の学力向上の取り組み(パワーアップタイム)の工夫
- ・体験的・問題解決的学習の一層の推進
- ・基礎・基本を確実に身につけるためのわかる授業づくり
- ・指導と評価の一体化
- ・公開研究会の実施
- ・学力調査の継続

平成
16
年度

テーマ「一人ひとりが自分のよさと可能性を發揮できる活動をめざして」
仮説

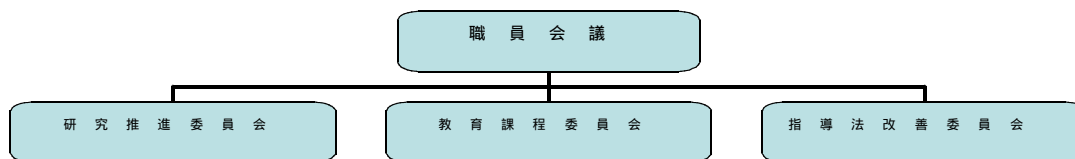
総合的な学習の時間において、児童一人ひとりが課題意識をもって、意欲的に活動を創り出し、その中に見られる思考力・判断力・表現力の育ちは、教科学習と強く関連すると思われる。

研究内容・方法

学年発達段階における「生活科」「総合的な学習の時間」の内容や活動を分析・検証し、特色ある年間計画の作成を進める。

- ・研究者を招き、継続的な指導助言を受ける。
- ・鴨居小学校独自のゆとりある年間計画の作成
- ・個に応じた指導のための教材・指導方法・指導体制の工夫
- ・子どもとつくる「生活科」「総合的な学習の時間」の工夫
- ・指導と評価の一体化
- ・公開研究会の実施
- ・学力調査の継続

(3)研究推進体制



- ・研究推進委員会メンバー
 - 校長 教頭 学年推進委員(1年 2年 3年 4年 5年 6年 級外)
 - 指導法改善委員会委員長
- ・教育課程委員会
 - 校長 教頭 学年委員(1年 2年 3年 4年 5年 6年 級外)
- ・指導法改善委員会メンバー
 - 校長 教頭 学年委員(1年 2年 3年 4年 5年 6年 級外)
 - 研究推進委員会委員長
- ・校内研究専門部(職員全員が各部いずれかに所属する)
 - ・授業研究部
 - ・資料収集部
 - ・環境整備部
 - ・渉外部

・平成15年度の成果及び課題

成果

- ・学習意欲の向上：平成14年度、生活科・総合的な学習の時間では、課題をもってそれぞれの子どもたちが課題解決にあたった。鴨居という郷土を理解してもらう活動をHPに表すなど積極的な活動を展開している。平成15年度も地域に根ざした学習を展開し、自ら地域の人々とふれあい、教室へ講師として招待したり、幼稚園・保育園と交流したり、他学年を巻き込んだ学習を計画したりするなど、さらに意欲的な活動が展開されている。
- ・算数科では、少人数指導により、一人ひとりの子どもが授業で活躍する機会が増え、「算数の授業が楽しい」「充実している」という感想をもつ子が顕著で、意欲的な態度が様々な場面で見られる。
- ・算数科での理解の向上：平成14年度、少人数指導を行った学年では、理解力が向上した。平成15年度は、さらに少人数指導およびTTを3～6年に導入した結果、子どもたちの算数に対する苦手意識が減少し、「好き」と答える割合や「学習内容が分かっている」と答える割合が上昇している。(意識調査から)
- ・国語科での理解の向上：平成14年度、音読や漢字学習などを重視して指導し、定着化が見られた。平成15年度は、「話す・聞く」に焦点を当て、パワーアップタイムの中で系統的に指導している。その結果、子どもたちは話すことに自信を持ち始めている。また、高学年では社会の出来事にも関心を持ち、話題の範囲を広げている。「読書活動」の一環として「読み聞かせ」も導入した結果、読書世界も広げている。
- ・英語活動への興味関心の深まり：英語活動のカリキュラム編成を練りなおし、系統的段階的に指導してきた結果、子どもたちは英語活動に興味関心をもって臨み、楽しく活動している。ALTに休憩時間も話しかけてくる子どもも多い。

- ・保護者は、少人数指導や TT、英語活動などに対し、理解をもち、学校全体の学力向上への取り組みに協力的である。

課題

- ・子どもたちの学ぶ意欲や内面の変容への「評価のあり方
- ・教育課程全般での学力向上をどのように見えるものとしていくか。
- ・保護者や地域の教育力の活用
- ・子どもたちの自己評価力の育成

．学力把握のための学校の取組について

- ・日常の授業での見取り
- ・学習カード・ふり返りカードなどによる自己評価を含むポートフォリオ
- ・ワークテスト・小テスト・学習プリントなどの活用
- ・グループ活動や個人の発表
- ・定期的な学力調査の実施（年 1 回）
- ・意識調査

．フロンティアスクールとしての成果の普及

1) 研究発表会 平成 16 年 11 月 19 日(金)

内容：授業公開 / 全体会 / 分科会など

スーパーバイザー 横浜国立大学 高木 展郎先生

2) HP http://www.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/schoolnet/element/elementary_school/33kamoi/index.html

次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校

【学校規模】 6 学級以下 7 ~ 12 学級
 13 ~ 18 学級 19 ~ 24 学級
 25 学級以上

【指導体制】 少人数指導 一部教科担任制 T.T.による授業
 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無